

コニカミノルタ

# magicolorが実現する Macビジネス快適術

## 第二回 マンガ家 鈴木みそ氏

本誌『Mac Fan』の「X (てん)までとどけ」をはじめ、多数の連載を抱えるマンガ家の鈴木みそ氏は、マンガの制作工程においてデジタルとアナログを巧みに使い分けている。そのワークフローの中心にあるのが、コニカミノルタのカラーレーザープリンタ「magicolor 2550」だ。マンガ家ならではの使い方とは、どんなものだろうか。



文・矢澤 哲 写真・黒田 彰

### マジカラーを 巧みに利用したワークフロー

マンガの制作方法は作家によって異なるが、鈴木みそ氏の場合は基本的に手で作画をしている。パソコンを利用する部分は、主に色塗りや枠線の描画、吹き出しの中のセリフの入力作業だ。いわゆるアナログである手描きの画にデジタルで前処理、後処理を加えて、制作工程を効率化している。

鈴木みそ氏の大まかなワークフローを見てみよう。まず、内容が確認できるように大ざっぱなエンピツ描きの「ネーム」を作成する。「これは自分の中でストーリーを練るため、あるいは編集者に『こんなマンガになりますよ』ということを知らせるための作業です」次に、ネームを元に「アドビ・イラストレーター」を使って枠線を作り、その中にセリフを



本誌連載の原稿。ペン入れが終了した段階(左)とそれをパソコンに取り込んで仕上げたプリントしたもの(右)。

打ち込んで下書きの準備をする。枠線を作るのに手描きではなくパソコンを使うのは、線がきれいで枠線の角がドットまでしっかり出るためだ。セリフを入力して配置し、枠の大きさ、レイアウトを決めたら文字だけ青色に変える。これを今回導入したカラーレーザープリンタ「マジカラー (magicolor) 2550」で印刷することで、枠線は黒、文字が青になった台紙が出来上がる。

「インクジェットプリンタで印刷すると枠線がにじむので、後でスキヤナで取り込む時に線がガタガタしてしまいます。でも、マジカラーで印刷すると、解像度が高いので線がきれいでシャープに出ますね」

そして、台紙の上に青いシャープペンシルを使って薄く下書きを入れ、その後に黒でペン入れをする。出来上がりをモノクロでスキヤナすると、青い下書きの部分は読み込まれず、枠線やペン入れした黒だけが残り、ちょうど消しゴムを入れた状態になる。

「マジカラーだと、一面青くなっているコマでも、上からペンを入れた時にまったくじみません。実は、ペンのにじみが一番嫌なんです。その点、マジカラーはマンガの下書き用としても非常に優秀だと思います」

その後、パソコン上で色を塗って保存し、最後に文字を青から黒に戻したものを重ねて出来上がり。これをデータで送信して、入稿している。

主に、下書き用として使用していた鈴木みそ氏だが、最近驚いたのがマジカラーのインクシミュレーション機能だという。これを使ってカラー印刷したところ、オフセット印刷とほぼ同じ色でプリントできた。

「これまで、色は『どうせ個人で導入するクラスのプリンタでは正確な色は出ない』とあきらめていました。でも、マジカラーのプリントと、実際に雑誌になったものと見比べてみると、ほとんど同じ色で驚きました。これからは、カラー原稿はマジカラーでプリントして、色を確かめるようにしたいですね」

## P r o f i l e

### 鈴木みそ

マンガ家。業界の「お金の事情」を取材した『銭』(エンターブレイン)から、アジア8カ国の放浪生活を綴った『アジアを喰う』(双葉社)、『マンガ化学に強くなる』(講談社)など多彩な作品を発表している。



### コンパクトで 頼りになるプリンタ

自宅を仕事場に行っている鈴木みそ氏にとって、マジカラー2550のコンパクトさも導入のポイントだったと語る。さらに、プリンタのメンテナンスが楽なこと、消耗品が長持ちな点も挙げる。

「コピー機を使ってスキヤンし、出てきたものにカラーインクで色付けしていた時代もありました。当時に比べると、大きさは半分以下、値段は10分の1以下でメンテナンスは簡単。つくづくいい時代になったと思います」

また、Macとウィンドウズマシンが混在する環境で作業している鈴木みそ氏にとって、マルチOS対応、ネットワークを介して自在に印刷できるマジカラーの存在は大変頼もしいという。

「いったんネットワークにつないでしまえば後は簡単。Mac OS Xならボンジュールを使って印刷できるところも便利です」

面倒な設定に手を煩わされることなくきれいなプリントを得られ、創作活動に多く時間を割くことができるようになった鈴木みそ氏。これからの活躍が楽しみだ。

鈴木みそ氏も納得!

プロの仕事に必要な、マジカララーの機能

シャープなラインと印刷に忠実な仕上がりが欲しい!

### デジタルトナーで高解像度と高画質出力を実現

鈴木みそ氏が絶賛した、枠線、罫線などのラインの美しさは、マジカララーの高画質出力という特徴をよく表している。マジカララーは、ドットをさらに細分化する「マルチビット画像処理技術」を搭載している上、粒子の細かく均一なデジタルトナーを採用している。このため、9600dpi相当×600dpiという高精細な仕上がりを実現しているのだ。

また、コニカミノルタ独自の技術により、モニタ画面の色に近い印刷色を再現している。プリンタ内部のセンサが中間転写ベルト上のトナー濃度を定期的に自動検知し、最適な濃度になるようコントロール。すべての階調において安定した色再現を可能にしている。鮮やか、かつ印刷に忠実なカラープリントは、これらの技術のおかげだ。こういったハードウェアとソフトウェアの性能は、プリントテクノロジー「エンペロン(Emperon)」によって最適化され、プリンタの力を最大限に引き出している。

加えて、デジタルトナーにはワックス成分が入っており、オイルレス定着を可能にしているところも特筆すべき点だ。仕上げにシリコンオイルを塗布しないので、印刷したものの上にペンなどで、きれいに書き込むことができる。



ラインのエッジは非常にシャープ。枠線も角もスッキリしている。しかも青い下書き線が印刷されている用紙の上からでもきれいにペン入れできるの、そのまま原稿にできる。

コニカミノルタ独自の次世代プリントテクノロジー「エンペロン」を搭載。

### スペースは限られるし頻繁な消耗品交換は嫌! デスク脇に置ける省スペース大容量カートリッジもあり

マジカララー2550の筐体は、幅430ミリ、奥行き395ミリと、このクラスのカラーレーザプリンタとしては非常にコンパクト。左右後方に余計な出っ張りがないデザインのおかげで、コーナーや壁際に設置する際にもストレスを感じない。さらに、メンテナンスがすべて前面から行えるフルフロントアクセス設計なので、用紙の給排紙はもちろん、トナーの交換、紙詰まりの処理などをすべて前面から操作できる。加えて、プリンタから発生する熱を上方に逃がす「上方排気機構」を装備。省スペースで、設置場所を選ばない設計となっている。

トナーカートリッジは、通常サイズに加えて大容量タイプも用意されている。通常タイプの印刷枚数(A4サイズ5%イメージ連続印刷時)が約1500枚に対し、大容量タイプは3倍の4500枚。これなら、夜中の消耗品切れなどで慌てる心配は少ない。



カラーレーザプリンタというと大きなイメージがあるが、マジカララー2550はA4カラーレーザプリンタの中では非常にコンパクトだ。すっきりとした筐体は狭いところにも設置しやすい。



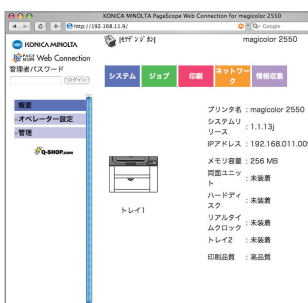
トナー、ドラムカートリッジの交換、ジャムへの対応も前面から行える。通常のトナーカートリッジの価格は1万500円、大容量のトナーカートリッジは1万5750円(ブラックは大容量のみ)。

### Macとウィンドウズの混在環境で使いたい! マルチプラットフォーム、ネットワーク共有対応

マジカララー2550がサポートしているOSは、Mac OS 9、Mac OS X 10.2~10.4(インテルMacを含む)、ウィンドウズ、リナックス。マルチプラットフォームのポストスクリプト3互換なので、OSを跨いで作業したい場合に大変重宝する。特に、最新プリンタをMac OS 9で使える点は、業務でMacを使っているユーザにはありがたい。

インターフェイスは、USB 2.0のほか、100BASE-Tイーサネットに標準対応。Mac、ウィンドウズなどが混在するクロスプラットフォーム環境でも、ネットワーク経由でプリンタを共有できる。Mac OS Xの「ボンジュール(Bonjour)」対応なので、Mac OS Xからなら手間要らずでプリントできる。さらに、Mac側でネットワークの設定を追加すれば、WEBブラウザでプリンタ内にアクセスでき、プリンタの状態を把握したりコントロールできるのは便利な点だ。

例えば、ウィンドウズのイラストレーターで枠線やセリフを入れて印刷し、ペン入れた後、スキャンしてMacに取り込み色付けを行うというワークフローも、マルチプラットフォーム対応のマジカララーなら簡単に実現できる。また、Mac OS、ウィンドウズそれぞれのカラーマネージメントシステムに対応しており、色にシビアな業務用途でも安心して利用できる。



「PageScope Web Connection」を使って機種固有の細かい設定をWEBブラウザで行える。プリンタ本体の操作パネルを使わずに、Macから設定できる点は、使ってみればその便利さに気づくはずだ。

### コンパクトで高性能なPS対応A4カラープリンタ magicolor 2550

A4サイズ対応のポストスクリプト3互換カラーレーザプリンタ。コニカミノルタが誇る独自のプリントテクノロジー「エンペロン(Emperon)」を搭載。9600dpi相当×600dpiの高解像度出力、デジタルトナーによる高精細かつ階調豊かなプリント、シミュレーション出力機能など、低価格モデルにも関わらず、業務用途でも十分に活用できる機能、性能を備えている。コンパクトかつメンテナンス性の高い筐体と相まって、使い勝手は非常にいい。



■ 13万8000円  
■ 9600dpi相当×600dpi  
■ 430(W)×395(D)×349(H)mm ■ 約18Kg(消耗品含まず) ■ A4~ハガキ ■ 10/100BASE-Tイーサネット、USB2.0、IEEE1284準拠パラレルインターフェイス ■ CPU:PowerPC 300MHz / メモリ256MB(最大640MB) / ハードディスク:40GB(オプション)

デザイン、DTPに最適なA3ワイド対応PSプリンタ

### magicolor 7450 ■ 32万8000円



高速処理に優れたPS対応A4(タンデム)カラープリンタ

### magicolor 5570 ■ 24万8000円

